



多摩大学 主催 第1回「鎌倉ホスピタリティ観光セミナー」追加募集のご案内

拝啓

時下ますますご健勝のことをお慶び申し上げます。平素は本学の教育研究活動並びに地域連携プロジェクトに格別のご高配を賜り心より御礼申し上げます。

この度、鎌倉市、鎌倉市観光協会、ならびに鎌倉商工会議所よりご後援をいただき、多摩大学グローバルスタディーズ学部（湘南キャンパス：藤沢市円行802）主催による第1回「鎌倉ホスピタリティ観光セミナー」を開催させていただきます。

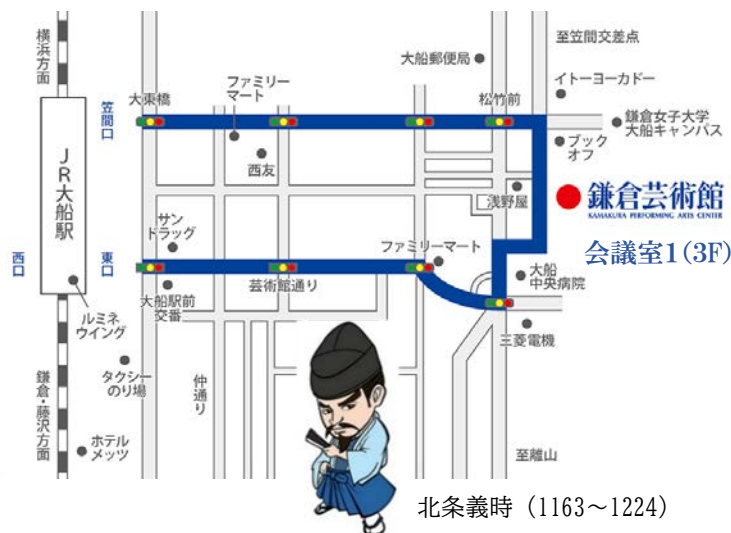
コロナ禍以降、観光・インバウンドの受入れは再開され、鎌倉市のボランティア・ガイドおよびホスピタリティ観光に興味をお持ちの受講者の皆様を想定し、本学部の取り組みであります観光を通じた地域活性化、地域連携、観光関連の課題解決などに関するセミナーを開催させていただきます。様々な視点から観光を取り上げますので、必ずご興味に沿えると考えております。

本セミナーによって鎌倉市を中心とした湘南地域のインバウンドに対する対応の改善に協力できれば幸いでございます。他の組織や団体の動きを啓発でき、今後のプロジェクトやイベントにつなげられればと期待しております。

今後とも地域に根差した大学を目指して参ります。
何卒よろしくお願い申し上げます。



多摩大学 研究開発機構長
安田 震一



多摩大学
湘南キャンパス

お申し込み方法・お問い合わせ

- 開催日時：2023年7月5日(水)～9月25日(月) 計8回（残り4回） 19時00分～20時30分(受付開始18:30)
- 会場：鎌倉芸術館 会議室1（3F）鎌倉市大船6-1-2 Tel.0467-48-5500
- 応募方法：件名を「ホスピタリティ観光セミナーの件」とし ①氏名（ふりがな）②年齢 ③住所 ④電話番号 ⑤ご希望の講座回、または講座日を入力のうえEメールでお申し込みください。
- 送信先メールアドレス：<sgs-pro@gr.tama.ac.jp> 多摩大学事業推進室宛
- 締切：随時
- 定員：50名 先着順
- 受講料：1講座/1,000円 当日現金で受付
- 問合せ：多摩大学グローバルスタディーズ学部 事業推進室 〒252-0805 藤沢市円行802
電話 0466-82-3331（平日9:00～17:30） 休業期間：8月10日(木)～8月16日(水)を除く

後援 鎌倉市・鎌倉市観光協会・鎌倉商工会議所

2023年 多摩大学グローバルスタディーズ学部主催 第1回「鎌倉ホスピタリティ観光セミナー」

会場: 鎌倉芸術館 会議室1(3F) 時間: 19:00~20:30

後援 鎌倉市・鎌倉市観光協会・鎌倉商工会議所

第1回 7月5日(水) 『中国人による親族・友人訪問観光の可能性』

親族や親友を訪問することは一般的に見られる社会的現象であり、人々が旅行に出かける主要な動機の一つでもあります。1980年代から始動した中国人の海外旅行は親族訪問から始まったとされています。今でも海外在住の親族・友人の存在は、多くの中国人を海外へ突き動かす原動力となっています。本発表は親族・友人訪問の定義、訪問者の観光行動、地域社会への効果を紹介し、コロナを経て日中間の移動が再び活発化する現在、日本の観光地にとって中国人による親族・友人訪問観光のもつ可能性について考えます。

講師 多摩大学 准教授 李 尚



第2回 7月6日(木) 『ポストコロナの中国観光』

中国は、2019年時点で国内旅行者数、海外旅行者数ともに世界一の観光大国です。国際観光支出の約5分の1は中国人観光客によるものとなっており、中国が国際観光に与える影響は大きく、日本の観光現場も中国と向き合うことを避けることはできません。世界各地の街並みや娯楽施設が「中国人好み」に開発されているように、観光を動かす中国的な論理を理解することは、世界の観光動向を理解することにつながります。ポストコロナの中国観光のトレンドを紹介し、今後のインバウンド観光について考えます。

講師 多摩大学 准教授 田中 孝枝



第3回 7月13日(木) 『分散型観光の手法について』

日本各地から、海外から多くの人々が訪れる町。四季折々、魅力溢れる場所 鎌倉
～ 今 この時 ここでしか味わうことのできない体験を、ゆったりとした時間の中で ～
滞在することでしか味わえない、留まることでしか気づかない何かに出会う旅。新たな発見がある 今までは違う観光の形。宿泊施設の見地から新たな可能性を考察しお話しします。

講師 株式会社ANAインターコンチネンタル東京 セールス&マーケティング部長 佐藤 健一



第4回 7月27日(木) 『これからの観光業～SDGsとともに考える～』

旅行会社が取り組む地域活性化戦略において、2020年からのコロナウィルス感染拡大によりさらに地域活性化についてどうしていくべきかを問われています。今回はSDGsをキーワードに現在および将来への「平和と豊かさを享受できる社会」を目指した観光分野の目標をどうやって達成させるのか、地域活性化の課題と合わせて旅行会社として何が提案できるのか、現状・課題・達成可能性について事例を交えながらお話しします。

講師 株式会社日本旅行 事業共創推進本部チーフマネージャー 兼 日本旅行総合研究所 主任研究員 安島 聖



第5回 9月4日(月) 『戦略的観光マーケティングとプロモーション』

新型コロナウイルスの影響から3年が経過し、旅行への憧れが高まっている人々に、どのようにして観光を魅力的に伝えるか。これは、感染症後の観光マーケティングやプロモーションにおける重要な課題です。旅行者の意識や行動は、安全性や衛生面、オンラインやデジタルツール、地域社会や環境など、様々な要素に影響されています。これらの要素について最新の調査データをもとに感染症後の旅行者に対する効果的な観光マーケティングやプロモーションの方法についてお話しします。

講師 株式会社JTB総合研究所 地域交流共創部 藤本 正俊



第6回 9月5日(火) 『「持続可能な観光」からオーバーツーリズムを考える』

新型コロナウイルスの影響も一段落し、各地の観光地は賑わいを取り戻しつつある一方、オーバーツーリズムが顕在化している地域もあります。観光庁では、混雑や騒音などの個別課題への対処に加え、中長期の観点から持続可能な観光地マネジメントを行うための指標として、「日本版持続可能な観光ガイドライン(JSTS-D)」を2020年に策定し、持続可能な観光を推進しています。これらの情報から、アフターコロナにおける観光戦略について、各地域の事例も交えながらお話しします。

講師 株式会社JTB総合研究所 地域交流共創部 主任研究員 藤田 尚希



第7回 9月22日(金) 『観光地における医療と防災』

観光庁観光戦略検討委員会では、ポストコロナ時代においても2030年の訪日外国人旅行者6,000万人を目標に掲げています。一方、南海トラフは今後30年以内にM8～M9クラスが70%～80%、首都直下地震は70%程度の確率で発生すると予測されています。こうした中で、令和3年に全国39カ所の道の駅が防災道の駅として広域的な防災拠点に位置付けられました。観光拠点である道の駅をケースとして、観光地における医療と防災について考えていきます。

講師 一般財団法人 日本総合研究所 調査研究本部経営研究部 部長 佐藤 和彦



第8回 9月25日(月) 『ジェロントロジーと美齢学』

ジェロントロジーとは日本では「老年学」と訳されますが、海外では「美齢学」と捉えて、人生を年齢とともに物事にチャレンジする中で美しく齢を重ねていく生き方を推奨する学問と解釈されています。弊所では、ジェロントロジーを高齡化社会学(シニア層が活躍する社会)と捉えて、少子高齢化の時代に、100年人生にフォーカスしたひとり一人(人材)が地域や社会が抱える課題にチャレンジすることで持続可能な地域づくりに貢献する取り組みを紹介し、

講師 一般財団法人 日本総合研究所 理事長 松岡 斉

